

平成30年11月12日  
(2018年)

保護者の皆様へ

吹田市立山手小学校  
校長 井辺 一恵

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものに過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導の工夫改善を図ってまいります。ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### (1) 国語

##### ●国語《概要》

##### ◎国語A（『知識』に関する問題）

児童の正答率は全国値をやや上回っており、多くの児童に基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

##### ◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

児童の正答率は、全国値をやや上回っている。しかし、文章から内容を読み取る問題や、記述式の問題については正答率が低く、特に、定められた条件に沿って所定の文字数内で文章にまとめる力に課題があると考えられる。

##### ●国語《各領域における成果と課題》

##### 話すこと・聞くこと

「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」こと、「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える」ことは、全国値を上回っている。

##### 書くこと

「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」こと、「他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」ことは全国値を上回っている。しかし、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」など記述力に課題がある。

##### 読むこと

「目的に応じて必要な情報を捉える」ことは全国値を上回っているが、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」ことや「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことに課題がある。

## 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

漢字の読み書きについては概ねできている。しかし、「主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」ことや、「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」ことに課題がある。

### ●国語科における成果と今後の改善点について

今回の調査の結果、漢字など言語事項の基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着しているといえる。国語の授業や、漢字のドリル学習など、日常の学習成果とみられる。

「書くこと」については課題が多い。無回答は少なく、何らかの回答をしている児童が多い。しかし、2つの条件を満たす文章を記述すべきところを1つの条件しか満たしておらず、言葉足らずで不正解となっている児童が相当数出た問題や、ある文章から一部を引用して記述すべきところを具体的な叙述を取り上げずに、自分の考えを書いてしまった児童が相当数出た問題がみられた。

授業を振り返って自由に感想を書くことについては、日常の経験を積んで、ある程度まとまった量の文章を書ける児童が増えている。今後は、条件に応じた文章を作る経験が必要である。また、たくさんの情報の中からすべてを引用するのではなく、自分が必要とする部分を引用して文章にまとめたり、事実と感想を区別して読んだりする経験を大切にしていく。

## (2) 算数

### ●算数《概要》

#### ◎算数A（『知識』に関する問題）

児童の正答率は、全国値を上回っており、多くの児童が今回出題されている内容をほぼ理解していると考えられるが、その一方で全国値を上回るものの基礎的・基本的な内容について十分に理解していないと思われるものもある。

#### ◎算数B（『活用』に関する問題）

児童の正答率は、全国値を上回っている。しかし記述式の問題においては、全国値を上回っているものの、読み取った内容を数学的に判断し記述する問題では正答率が低い。

### ●算数《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

計算の処理や数直線に関する理解など概ねできているが、「示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する」といった記述式の活用については課題がある。

#### 量と測定

「混み具合」や「角の大きさ」についてはよく理解しているが、式の意味理解や「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する」といった記述式の活用については課題がある。

#### 図形

「空間の中にあるものの位置」や「条件に合う図形を見つける」など図形の基本的な性質については理解しているが、円周率の意味理解や「図形の構成要素や性質を基に記述する」といった記述式の活用については課題がある。

## 数量関係

「除法で表すことができる二つの数量の関係」や「百分率（パーセント）を求める」など基本的な内容については理解しているが、「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断する」ことやグラフを複数の観点から考察し記述するといった知識を活用する問題において課題がみられる。

### ●算数科における成果と今後の改善点について

四則計算など基礎的・基本的な内容については、ほとんどの児童が習熟している。ただ小数の除法の意味や円周率の意味について、全国値を上回るものの正答率は高くはない。計算処理だけでなく、その処理の意味を数学的に捉えられるようにしていく。

すべての領域で、記述式の問題に課題がみられた。問題に出されているひとつひとつの数字が何の数量を表しているかを理解し、それが表しているものをどれだけイメージできるかが大切である。また、自分の考えた解き方でなく、他人が考えた解き方も理解し説明できる力が求められている。

今後の改善点として、一つの式や一つの図・グラフからさまざまな読み取りができるという経験を大切にする。そのうえで、子ども同士で説明し合ったり、友達の考え方を説明したりするなど、多様な見方・考え方に触れる活動を授業の中で適宜取り入れる。また、国語科の分析とも重なるが、定められた条件に沿った文章を書く力に課題があり、文章表現力を伸ばす活動を適宜取り入れていく。

## (3) 理科

### ●理科《概要》

児童の正答率は、全国値を上回っており、多くの児童が今回出題されている内容をほぼ理解していると考えられるが、その一方で全国値を上回るものの活用的な内容について十分に理解していないと思われるものもある。

### ●理科《各区分における成果と課題》

#### 物質

実験の基本的な技能については概ね理解できているが、「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないこと」に基づいて考察する問題や、実験結果から言えることを記述する問題の正答率が低く、前者は科学的な理解が不足しており、後者は記述の仕方の理解が十分でなかった。

#### エネルギー

電気の流れに関しては概ね理解できているが、「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係」の知識を使って「目的に合ったものづくりに適用する」といった活用問題に課題がある。

#### 生命

人体のしくみなど基本的な知識に関しては概ね理解できているが、「安全に留意し、生物を愛護する態度」に基づいて、観察方法を考察する問題の正答率が低く、自然環境に配慮する意識が十分でない。

## 地球

流れる水の働きなど、基本的な知識や科学的な思考に関しては概ね身につけている。ただ、全国値を上回るものの、「実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」問題の正答率が低い。問題を読み取り、何が問われているかを正しく理解する力が十分でない。

### ●理科における成果と今後の改善点について

質問紙（アンケート）にみられるように、理科の授業に関心が高く、観察や実験が好きで、授業の中で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりできている児童が多い。そして基礎的・基本的な内容についての理解も高い。

今後の改善として、実験をする際に、どのような予想を確かめるための実験なのかということを明確にし、また結果から何が言えるのかを科学的に思考・表現することをより大切に扱っていく。また、観察や実験をする際に、なぜそのような装置にするのかを検討し、理解を深めるようにする。

実験結果からわかることをまとめる問題で、端的に「食塩水の食塩は、蒸発しない」と答えるべきところを、その根拠として溶かした食塩が残る様子を記述し（つまり余計なことを書いたために）、不正解となった児童が相当数いる。たくさん書けばよいのではなく、尋ねられたことに正対した記述ができるように、書き方を指導していく。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の分析

- 自分にはよいところがあると思っている児童が多く、よいところを認めてもらえている児童が多いことがうかがえる。
- 放課後の過ごし方として、学校や家以外の場所での習い事をしている児童が比較的多く、家で勉強や読書をしたり家族と過ごしたりしている児童が比較的少ない。
- 理科の学習に関して肯定的な回答が多く、「理科の勉強が好き」で、将来社会に出たときに役に立つと思っている。また、理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりできていると考えている児童が多い。
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思っている児童が多い。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思っている児童が多い。また、友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思っている児童が多い。

## 3 今後の取り組み

教科に関しては国語・算数・理科とも全国値を上回っていました。しかし全国の児童と同じく、記述式の問題の正答率が低い傾向があります。尋ねられたことに的確に答えるために、求められている条件を理解しそれに基づいて書くことや、説明の仕方に慣れ、筋道立てて表現する活動を大切にします。

ご家庭では引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣を大切に、また、相手を思いやる気持ちや、主体的に行動する態度、あいさつの励行など「心の教育」にもお力添えいただきたく存じます。今後とも、児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご理解、ご協力をお願いいたします。